

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 11月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671500102
法人名	社会福祉法人 長生会
事業所名	グループホーム幸せの里
所在地	〒622-0011 京都府南丹市園部町上木崎町坪ノ内19番地 (電話) 0771-62-0223

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年10月30日	評価確定日	平成21年11月18日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.3 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	平屋 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,800 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	(有) ( 143,400 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要( 4 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	72 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南丹病院、もみじヶ丘病院、シミズ病院、長生園診療所、大町歯科医院、山田歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南丹地域では早い時期から高齢者福祉に取り組まれている法人を母体を持つ当該ホームは、豊かな自然に恵まれ、高台に立地しています。平屋建てのホーム内は天井が高く梁を効果的に使い開放感に溢れています。玄関は施錠されておらず、各居室やリビングからも直接に庭に出ることができ、自由な暮らしを支援されています。利用者は、毎日の散歩やリビングの窓から見える風景、旬の野菜を採り入れた食卓等で季節を感じながら、それぞれのペースで穏やかに生活されています。職員は、できることを続けて頂きたいとの思いから、身体機能の維持のための援助を徹底され、寄り添いながらケアを提供されている結果、利用者と職員の距離が近く、家族からも大きな信頼に繋がっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回話し合った検討すべき事柄では、ホーム独自の理念を作ることや、利用者の様子をコメントにして家族に送付する等、改善に取り組まれています。今回把握した新たな課題にも、職員間で話し合いながら取り組む予定です。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員の意見を反映させながら管理者が作成されました。日常のケアに対する振り返りの機会となっています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、地域の民生委員、行政、地域包括支援センター職員、法人上司、ホーム職員を基本的なメンバーとして2ヶ月に1度開催しています。レジュメを配布して、ホームからは行事や利用者の様子を報告し、参加者からは意見をもらっていますが、ホームからの一方的な会議になりがちであり、今後の会議のあり方を模索しているところです。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には直接意見や要望を聞いています。得られた意見にはすぐに対応し、ケアに活かしています。年に一回、家族参加の行事を開催して、その後に話し合う場を設けています。玄関には意見箱を設置し、配布文書にはホームの相談窓口と公的機関、第三者委員を明確に記載しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭に参加し、お神輿がホームまで廻って来てくれています。ホームには療育教室から子供達の訪問があり、一緒に家庭菜園でできた作物の収穫をしておよつ時間を共に過ごしています。法人には幼稚園児の訪問が定期的であり、利用者の笑顔を引き出しています。また、中学生の職業体験学習にも協力し、厄神へのお参りや喫茶店に行く等積極的に地域に出かけています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が定めている理念を基に、住み慣れた地域の中で尊厳を保ちながら暮していくという意味を踏まえたホーム独自の理念を職員間で話し合い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時のオリエンテーションでは法人の理念とホーム独自の理念を説明し、職員は理解をした上で業務に就いている。毎朝のミーティングで理念を唱和したり、日々のケアの中で振り返る機会を定期的に持ちながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭に参加し、お神輿がホームまで廻って来てくれている。ホームには療育教室から子供達の訪問があり、一緒に家庭菜園でできた作物の収穫をしておやつ時間を共に過ごしている。法人には幼稚園児の訪問が定期的であり、利用者の笑顔を引き出している。また、中学生の職業体験学習にも協力している。厄神へのお参りや喫茶店に行く等積極的に地域に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員の意見を反映させながら管理者が作成した。前回話し合った検討すべき事柄では、ホーム独自の理念を作ることや、利用者の様子をコメントにして家族に送付する等、改善に取り組み、今回把握した新たな課題にも取り組む予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の民生委員、行政、地域包括支援センター職員、法人上司、ホーム職員を基本的なメンバーとして2ヶ月に1度開催している。レジュメを配布して、ホームからは行事や利用者の様子を報告し、参加者からは意見をもらっているが、ホームからの一方的な会議になりがちであり、今後の会議のあり方を模索しているところである。		

グループホーム幸せの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは密な交流があり、担当者との電話連絡は頻繁であり、相談もしやすくアドバイスや情報も頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には直接暮らしぶりを伝えている。毎月、請求書とともに利用者の様子のコメントを作成して送っている。金銭については預かり金対応で、3ヶ月に1度通帳のコピーと一緒に収支報告をしている。また、6ヶ月に1度ホーム独自の季刊誌を発行し、行事報告、取り組みを写真入りで載せたものを配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には直接意見や要望を聞いている。得られた意見にはすぐに対応し、ケアに活かしている。年に一回、家族参加の行事を開催して、その後に話し合う場を設けている。玄関には意見箱を設置し、配布文書にはホームの相談窓口と公的機関、第三者委員を明確に記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、離職は最小限に留めようと、職員のストレス軽減に努めている。職員間での打ち解けた話し合いの中から解決策を見出したり、思いや考えをストレートにあらわす機会を大切にしている。職員採用時には、利用者と一緒に過ごす中でお互いに顔見知りになれるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には研修計画があり、順次参加する体制を整えているが、ホームでは人員配置の都合から参加できていない状況である。ホーム独自では、会議の際に事例を出して検討したり、管理者や長く務めている職員からは、経験談や、アドバイスを受けて勉強している。	○	法人の研修参加者からレジュメや研修報告書を回覧させてもらったり、講師としてホーム職員に伝達研修をしてもらう機会を作る等の検討をされてはいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟し、管理者と職員が勉強会や会議に参加したり、他事業所とは交換研修をする等、お互いに行き来して、その場で得られた知識をケアに活かしている。現在のところ人員配置の都合で交換研修を中断しているが、再開したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ホームに見学に来て頂き、ホームの状況を知って頂いている。法人のケアハウスからの入居が多く、空室がある場合は一泊二日で体験入居もでき、雰囲気慣れてから入居という過程を踏んでいる。居宅からの入居の際は、必ず家庭を訪問して生活場面で面接を行なう事で状況を把握している。入居後は、家族の協力を得ながら、落ち着いて生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や家庭菜園での作業を一緒に行ないながら教えて頂く場面を作っている。多くの経験からの楽しい話や苦労話、戦争の話や、地域にまつわる思い出話等、共有時間を持ちながら様々な思いを共感している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで利用していた施設や家族からの情報、日々の会話の中から思いを引き出すように心がけ、表情から気持ちを汲み取っている。把握した事柄は会議等で話し合い、職員間で共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで情報を収集して、その方にとっての課題等を職員間で話し合った内容を基に、本人や家族の意見、要望を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行って計画の評価をした上で、6ヶ月に1度、介護計画を見直している。計画を再度立てるときには、医師や看護師の意見も反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や行きつけの美容院への送迎、私物の買い物等、希望があれば個別での外出を柔軟に支援をしている。温泉に行った事があり、利用者は大変喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医も継続できることを説明して、ホームの提携医の診察を受けている。提携病院からは、内科、整形外科、皮膚科、外科の往診があり、法人の診療所とは24時間連絡可能で、緊急時の対応もある。歯科衛生士や言語聴覚士の訪問もあり、安心の医療体制が整っている。状態に応じた対応ができるように、複数の医療機関との提携を結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族にはホームでできること、できないことを明確に説明し、医療面からのアプローチが必要になると、法人の特別養護老人ホームに代わる事等を説明して同意をもらっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を守りながら生活することは理念にもあり、常に配慮している事である。言葉遣いに関しては、丁寧を心がけながらも、家族同士が話しているような言葉かけをしている。不適切な場面が見られた時には注意し合っている。個人情報等の記録物は、事務所奥の鍵のかかる宿直室に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけはするものの、起床時間や就寝時間は自由で、利用者のペースに合わせた支援をしている。昼食後には、居室へ戻って昼寝をしたり、テレビを見る等プライベートの時間を持つ方や、リビングで過ごされる方等、自由な暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は本館にある厨房に利用者と一緒に取りに行き、下ごしらえや味付け、下膳、後片付け等、できることを利用者と一緒に行っている。一人ひとりが自分の食べる量のご飯をよそったり、お茶を入れたりとできることをされている。職員も利用者と一緒にお茶を飲んでいますが、業者が変わった都合で各自持参の食事を摂っている。家庭菜園で収穫した野菜や新鮮な魚も食材に加え、食事の時間の楽しみが増えるように支援している。手作りのおやつも好評である。	○	現在は利用者と職員は別の物を食べられていますが、去年までは同じ物を食べていたという事もあり、料理の味や調理具合を知る為にも、今後は職員も同じ物が食べられるように働きかけることが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前から夜間まで入浴できる体制を作っている。希望があれば毎日の入浴もできる。拒否傾向のある方には、入浴する気になるように声かけを工夫したり、医師や法人の職員にも協力してもらって、気持ちよく入浴して頂いている。風呂場の手すりの位置や、ボードの使用方法を工夫して安全に入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材を取りに行かれる方や食事の際に挨拶をされる方、調理や洗濯物たたみ、掃除、畑仕事等、一人ひとりの得意なことや好きなことなどができるように支援している。法人のサロンでの喫茶に出かけたり、行事にも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境に恵まれた地域で、毎日散歩に出ている。買い物や近所の喫茶店に行ったり、外食、温泉、ドライブに出かけたりしている。庭で日光浴したり、日常的に外気に触れる機会は多くあり、年に一回は家族と一緒にバスで遠出をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やリビングの窓等、日中は施錠していない事で、見守りの強化と居場所確認を怠ることがないようにしている。不穏状態の強い時には施錠する事もあるが、家族の了承を得ている。外へ行きたいと言われた時は職員付き添いの元で納得いくまで出かけてもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署との協力で法人と合同で避難訓練を行っている。ホーム独自でも夜間想定で訓練しており、法人からの協力も得られている。消防団が近くにありすぐに駆けつけてくれるように話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者が栄養バランスを考慮した献立を利用している。食事量は食事を残された場合は日誌で申し送りしている。状態に合わせて、トロミをつけたり、おかゆで対応している。キザミ食にする場合は、まず元の形を見て頂いてから刻んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、梁が効果的に使われており、開放感が溢れている。食卓には花が生けられており、季節にあった貼り絵や利用者が書かれた習字が飾られている。食卓やソファコーナー等、お気に入りの場所で過ごすことができる。リビングの窓から家庭菜園が見えて直接庭に出ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台が備え付けられてあり、家庭で使っていたテレビや家具、布団、お気に入りの装飾品、掃除道具、アルバム、趣味の物を持ち込まれ、一人ひとりが居心地の良い居室作りがなされている。各居室の窓からも庭に出ることができる。		